

昌子の広場

第67報

小林昌子議会報告

和泉市無所属市民派議員

小林昌子

和泉市緑ヶ丘2-13-10

自宅 Tel(Fax) 0725-54-2626

事務所 Tel(Fax)0725-53-4451

Email masakokob@yahoo.co.jp

http://masako-hiroba.info/

ホームページもご覧下さい

yahoo の小林昌子で検索出来ます



目次

- ・市民病院の問題を考える P1-3
- ・淀川水系流域委員会を傍聴、昌子の広場 P4

市民病院問題を考える！ 市民の不安にどう答える 病院経営が正念場

どうなる市民病院！ 深刻な経営危機に直面

市民病院は、今極めて厳しい経営状態にあります。市民の方々は、休診が相次ぎ、担当の先生が辞めていくなど先々の病院に大きな不安をお持ちです。病院は建て直しに向けて、外部コンサルタントの協力も仰ぎながら、鋭意検討を進めています。先日議員全員に病院事業管理者等から説明がありました。今月号はその病院問題の特集します。

自治体病院の経営問題は全国的な問題となっています。しかしながら和泉市の病院は、ここ数年で一気に状況が悪化しており、最早一刻の猶予も許されない厳しい状況に陥っています。

昨年12月に「平成19年度収支改善へ向けての考察」と題してコンサルティングの報告がありました。その報告書の要点は

- ・ 医師の生産性向上
医師一人当たりの患者数が他の病院に比べて低いのでこれを向上させ、受入患者数を増加させる
- ・ 亜急性期患者の受入
現在市民病院で対応している急性期患者以外に慢性期に至らない中間的な患者を受け入れる
- ・ 看護師基準の変更
現在入院患者 7 人に対し一人の看護師を、患者 10 人に一人に緩和する（但し診療単価は低下）
- ・ 委託加工費の見直し
等でした。

この中で最も実現性のあるのは亜急性期患者の受入です。医師の受け持ち患者の増や看護基準の変更による患者数の増加は、患者数の減少が医師不足に起因している以上有効な対策とはなり得ないと考えます。

これらの報告等を元にして平成 19 年度の病院の予算が発表されました。これをもとに精査していきます。

平成19年度病院特別会計予算

	単位千円		
	(a) 平成19年度予算	(b) 平成18年度見直し	(a)-(b) 差
経常収益			
医業収益	6,038,379	4,521,000	1,517,379
入院収益	4,142,032	2,862,000	1,280,032
外来収益	1,513,175	1,322,000	191,175
その他	383,172	337,000	46,172
医業外収益	371,369	284,000	87,369
経常収益計	6,409,748	4,805,000	1,604,748
経常費用			
医業費用	6,981,334	6,166,000	815,334
給与費	3,457,898	3,131,000	326,898
材料費	1,508,000	1,175,000	333,000
経費	1,438,995	1,320,000	118,995
減価償却費	547,325	520,000	27,325
資産減耗費	8,000	4,000	4,000
研究修繕費	21,116	16,000	5,116
医業外費用	131,903	103,000	28,903
支払利息	127,033	98,000	29,033
その他	4,870	5,000	-130
経常費用計	7,113,237	6,269,000	844,237
経常損益	-703,489	-1,464,000	760,511
一日平均外来患者数	786	707	79
一に平均入院患者数	268	200	68
職員給与費(%)	57.3	69.3	-12.0

自治体病院の問題を考える上で、考えねばならない事項は以下の点であると私は考えます。

医師の確保が喫緊の課題であることを前提に

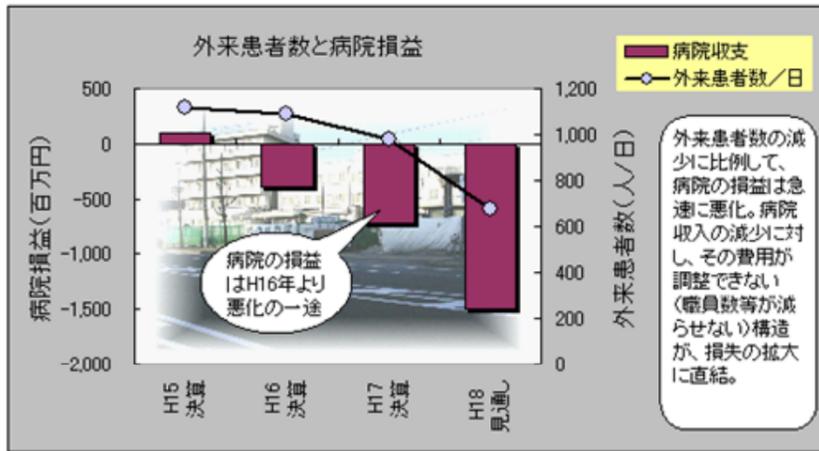
- ・ 公的病院の責任をどう考えるか
- ・ 責任から生じる負担をどこまで税金で面倒をみるか
- ・ 医療のデパートが今後も維持できるのか
- ・ 地域の医療機関と広域連携をどのように考えるか

自治体病院の現況

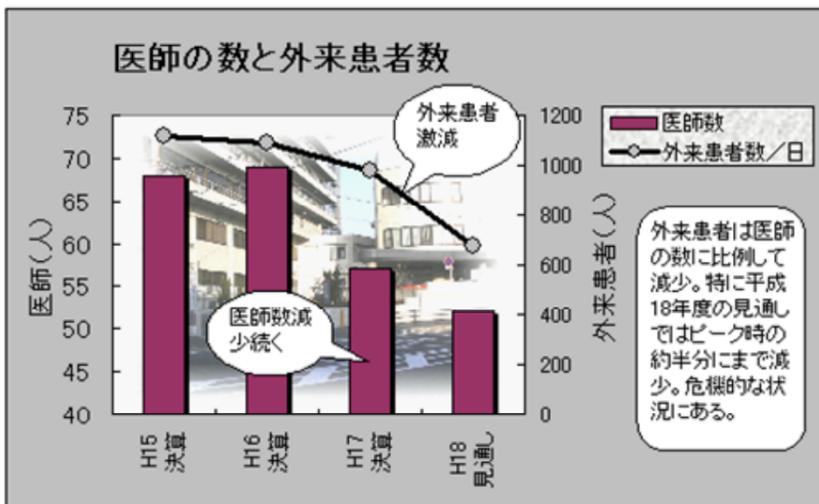
全国の自治体病院の経営は極めて厳しい状況が続いています。2/3の病院が赤字で、全体では1430億円もの赤字を出しています。累積欠損は1兆7820億円にも達し、今年度中に2兆円を超えることは避けられないとされています。この累積欠損は自治体では最早倒が見られないことを表し、いずれは住民に負担がのし掛かります。病床利用率の向上等による医療施設の有効活用、職員の弾力的な配置による定員管理の適正化、医薬品使用効率の向上等による経費の適正化等が自治体病院の健全化に必要とされています。一部では看護師等の職員の給与レベルが民間から見ると高く、この解決無くして健全化は達成できないとの指摘もあります。

医師の確保は、専門医志向、都市志向、勤務医の過酷な勤務体制、更に平成16年から開始された新医師臨床研修制度による大学医局の医師派遣機能の低下等により、相当に困難な状況にあり、地域病院の経営に大きな影響を与えています。

市民病院の実態は



平成16年度から病院の損益は赤字に転落し、その赤字は毎年増加の一途です。当然の事ですが外来患者数の減少が病院の収益に直接結びついています。外来患者数は平成15年度をピークに減少に転じていますが、医師の数が減少しているのとはほぼ同じ動きをしています。

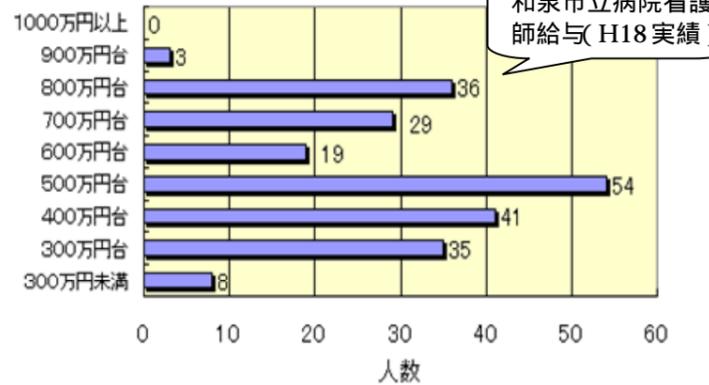


全国レベルと比較したら

	全国レベル	和泉市立病院		病院経営面からの評価
		H18見通し	H17決算	
医療費用に占める職員給与比率	47.6	69.3	53.4	×
一床あたりの繰入金(千円)	2,130	2,354	2,691	○
給与(万円/年)	医師	1,245	1,125	○
	看護師	486	612	×
	准看護師	573		×
患者一人当たりの料金収入(円)	入院	34,021	39,205	○
	外来	9,089	7,603	×
	平均	18,195		×
病床利用率	80.3	61.2	79.5	×
経常収支比率	96.7	76.6	88.3	×
累積欠損金(千円)	33,686	5,348,602		×

病床利用率は全国レベルと比べ大幅に低い。累積欠損金も53億円にも達する。看護師の給与水準が高く、患者数が減少しているにも拘わらず、職員数は減っていない事から、医療費用に占める職員給与比率は全国レベルと比べ大幅に高い。経常収支比率(定期的に必要経費がどの程度医療収入で賄えるかの比率)は76%で、極めて劣位。

看護師の給与(含む非常勤、アルバイト)



和泉市立病院の看護師の年収は民間病院と比べて相対的に高いと言われている。しかしながら、病院の改革は看護師の協力がなくては成り立たない。看護師を副院長に登用する等、看護師が病院の運営に積極的な参加が出来るような体制が必要であることは、多くの自治体病院の改革を行った識者が共通して指摘している。年収に見合った仕事出来る環境の整備が病院の改革には是非とも必要である。

市民病院に対する市民の声

- ・勤務している先生は、昼食も取らず頑張っているがいつまで続けられるのか。
- ・行っても診てくれない。他の病院に行きなさいと言われる。
- ・大きな赤字を出しているようだけど、大丈夫なの。
- ・信頼していた先生が開業医になったので、時間をかけてそこに行っている。
- ・入院の時、民間では到底していただけない手厚い看護をして頂いた。
- ・病状が安定したとかで、間もなく別の病院に移らないといけない。やっと落ち着いたのに病気が治るまで、市民病院で診て貰えないのか。
- ・赤字で税金を投入せざるを得ないような病院はいつその事止めてしまえば。岸和田でも泉大津でも堺市でもその市立病院が使える。

近くの富田林市の病院でも



病院の危機は和泉市の市民病院だけの問題ではありません。近くの富田林市の済生会富田林病院でも同じような問題が起きています。昨年4月に産婦人科の診療を中止したのに続き、最近では内科医の転出が相次ぎ、診療の危機に立たされています。医師の十分な補充が見込めず、残った医師に過重な負担がかかり、医療事故でもあれば訴訟のリスクを抱えるなどの事情があるようですが、和泉市でも同じ状況です。忠岡町の公立病院は岸和田市民病院と統合再編するため閉鎖に追い込まれています。自治体病院の危機は続きます。

淀川水系流域委員会を傍聴

国土交通省が突然の休止を宣言し、注目を集めた淀川水系流域委員会が中之島の中央公会堂で開催されました。

今回が現在の委員の最後の委員会となることから、報道関係者はもとより、多くの(ざっと見た感じでは200人以上)傍聴者がつめかける中で開催されました。

今までの各部門のまとめや次期委員会への意見書のとりまとめのため、現委員の方達はここ数日間は大変だったことだろうと推測いたしました。

そうなんです。この委員会は従来の委員会と異なり、委員が実際にとりまとめの文章を作成するのです。

1997年「河川法」が改正された結果、環境重視がうたわれ、流域住民の意見を反映することとされました。それを具現化したのがこの淀川水系流域委員会で、今後の流域委員会のモデルとも言われていました。

今回はそれぞれの部会の提言に対し、質問や意見が出され概ね原案が承認されました。

しかし一カ所ひっかかる場面がありました。

元大阪府副知事金森弥氏による意見書「水需要管理の実現に向けて」に対する意見書が提出されたときでした。意見書に対して異なる意見があってもそれが認められるべきものですが、過去の職にとらわれての発言、意見のように私には感じられました。

全ての意見が出尽くしたあと、傍聴者発言が相次ぎ、箕面の増田市議からは国土交通大臣にあてた要望書を送付したと、その要望文が読み上げられました。私もこの要望書には賛同人として名前を連ねています。6年間で20億円を費やしたと批判する方もおられますが、専門家、行政、市民が予断を持たず積み上げてきたこの委員会の500回の議論は民主主義の結晶です。今後この委員会の委員が入れ替わり、従来のようなお墨付き機関に成り下がるのか、或いは当初設置の目的通りの委員会となるのか注目していきます。

和泉市に建設中の榎尾川ダムは、この流域委員会の範疇外ですが、平成20年本体着工を控え、榎尾川ダムの見直しを求める連絡会はダム反対の署名活動を大々的に行う準備を進めています。

昌子の日記

- 2/1 子育てサロン「グリーンアップル」、南横山小、南池田小英語教育視察
- 2/2 コーチング講座、温暖化防止活動推進員報告会 室堂テニスコート前道路違法駐車夜間パトロール
- 2/3 森かずとみ選対打合せ
- 2/4 琵琶湖、淀川を考える会シンポジウム in 大津

- 2/5 和泉中央駅会報配布、榎尾川ダム定例会
- 2/6 和泉中央駅会報配布、市立病院の現状説明会
- 2/7 和泉中央駅会報配布
- 2/8 北信太駅会報配布、ソロプチバザー準備
- 2/9 光明池学習会、会派予算説明会
- 2/10 ソロプチバザー準備
- 2/11 ソロプチバザー
- 2/13 泉州東部農用地視察
- 2/16 市政相談会
- 2/16 信太山駅会報配布、EM講座、下水道勉強会
- 2/17 短歌「TABIJI」、和泉市軟式野球懇親会
- 2/19 和泉中央駅会報配布
- 2/20 和泉府中駅会報配布、子どもサポーター研修会
- 2/21 事務所運営委員会
- 2/22 介護保険運営協議会傍聴、議会運営委員会
- 2/23 コーチング講座、かがやけ石尾っ子の会
- 2/24 エスコープフォーラム
- 2/26 犬のブルセラ症感染現地視察
- 2/27 国民保護計画会派説明会

事務所行事 > いずれも小林昌子事務所で

連絡先 自宅 TEL 0725-54-2626

事務所 TEL 0725-53-4451

(事務所 緑ヶ丘1-3-15)

万葉講座(場所 緑ヶ丘自治会館にて)

・講師 大高勇さん(犬養万葉顕彰会会員)
会費

・3/10(土) 万葉の薬草を訪ねて
薬摘、薬狩りは野遊びの原点

・4/14(土) 瀬戸内の船旅

・5/13(日) 万葉バスツアー 室の浦(相生)
万葉岬を訪ねて

ちぎり絵

・講師 西原志満子さん

・4月18日(水)13時~16時

・材料費実費 参加費無料

パソコン講座(参加費無料)

・3月、4月は休講です。5月の連休明けから再開します。

・パソコンが初めての方もどうぞ遠慮なく。
初めてこられる方はご連絡下さい

市政相談会

・第2、4水曜日 20:~21:30

この時間帯で都合のよい時間にお越し下さい